



元町

札幌市立元町中学校
学校だより 第 19 号
令和3年3月25日(木)
発行



マスクの下を笑顔に

校長 和泉 明一

新型コロナウイルス感染症の拡大で始まったこの一年、経験したことのない長期の休校、変更と試行錯誤の教育活動、日々の感染症予防対策…、そして、まだまだ見えない未来の終息、不安のぬぐえない時間は続いています。それでも季節は巡り、確実に春はやってきました。

保護者の皆様、地域の皆様の御理解と御協力のもと、心通う落ち着いた教育環境の中で、子どもたちが「元町中に通いたい」、保護者の皆様には「元町中に通わせたい」、地域の皆様には「元町中を支えたい」と思えるような学校づくりを進めてきました。まだ大きな成果を十分にお披露目はできていないかもしれませんが、着実に一歩ずつ進んでいると考えています。

本日の修了式の中で、子どもたちにこんなお話をいたしました。

「チーム元町中」は挨拶などもしっかりできると私は思っていますが、良いところとしてもう一つ、「笑顔」を付け加えませんか？ある本に「いいことが起きたから笑顔になるのではなく、笑顔だからいいことが起きる」と書いてありました。私も自分の生活を振り返り、なるほどと思いました。

たとえ、マスクに隠されていても笑顔は相手に伝わる、笑顔だと相手を大切に思う気持ちを伝えられる。笑顔で接してもらった人には喜びが生まれる。笑顔で人間関係が良くなる。笑顔は人の表情も周りの雰囲気も明るくする。笑顔は健康や美容にも良い。などとも書かれていました。これらは皆さんにも当てはまるのではないのでしょうか。

ここで問題は、「笑顔になりたいくてもなれない」という人です。「つくり笑顔」なんて信用できない。楽しくないのに笑えない。笑顔は自然に出るものだ…と思込んでいる人も多いと思います。けれども、つくり笑顔でさえ否定すると、せっかくの幸せへの道を閉ざしてしまうことになるのかもしれません。例えば、朝教室に友達や先生が入ってきたときに、その表情がさえなかったり暗かったりしたら、まず嫌だし、心配になります。逆に、ニコッと笑って教室に入ってきた友達には、気持ちよく「おはよう」と声をかけることができるはずで

す。「人間だけにできること」の一つに「笑顔」を作れるということがあるそうです。笑顔で使う筋肉は、自分の意志で動かせる随意筋という筋肉です。嬉しいとき、犬なら尻尾を振り、猫なら喉を鳴らしますが、これらは、随意筋によるものではないので、嬉しくもないのに自分の意志でそれらの動きをすることはできません。人間は「笑顔」になることを選ぶことができるのです。人間だけがお互いに笑顔を交わし、交わした笑顔で幸せになることができるのです。

さて、春は人事異動の季節でもあります。元町中学校もこの度9人の教職員が異動となります。明るく前向きな生徒や、本校の教育活動をいつも温かく見守り支えていただいた保護者の皆様、地域の皆様に心より感謝申し上げます。

また、4月に新たな教職員を加え、新鮮な気持ちで新学期の準備に取り組んでまいります。この後も、「チーム元町中」として、学校、学年が一丸となり、「笑顔あふれる学校」づくりに力を尽くす所存でございます。一年間、本当にどうもありがとうございました。

「1年生で頑張ったことと2年生の抱負」



1年4組 岡本 隼央

私が1年生で頑張ったことは、勉強と部活動の両立です。中学生になると、成績が高校受験に大きく関わってくるので、初めは少しプレッシャーを感じていました。ですが「分からない問題は絶対にそのままにしない」ということを1年間徹底しました。また、テスト前になると自分で一日の学習スケジュールを組みました。そうすることで、時間を無駄にすることなく、効率よく勉強することができました。その努力の甲斐あって、すべての定期テストで満足のいく結果を残すことができました。

部活面では、バドミントン部に入りました。初めはルールさえも分かってはいませんでした。ですが「左利きプレイヤーは有利になることがある」と先生にアドバイスされてから、だんだん練習が楽しくなってきました。そして、大会に行けるメンバーにも選ばれることができました。部活と塾に追われる日もありましたが、充実した1年を過ごすことができました。

2年生になって頑張りたいことは、お手本となる2年生になることです。2年生になると後輩が入ってきて、先輩になります。そして、部活では頼りにしている先輩が引退してしまいます。すると、1年生だったから許されたことや、できなくてもよかったことができなくてはならなくなります。なので、今も徹底している「分からないことは絶対にそのままにしない」ということを今後も継続し、新たに入ってくる1年生のお手本となれるような2年生になれるよう頑張ります。

